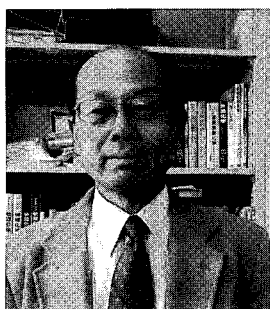


# 第14回 同窓会報

〒564-8680 吹田市山手町3丁目3-35

☎06-6368-1121 内線5840

同窓会編集委員会 発行



## 《《 卷 頭 言 》》

工学部化学工学科から  
環境都市工学部エネルギー・環境工学科へ

環境都市工学部エネルギー・環境工学科 教授  
三宅孝典

卒業生の皆さんにおかれましてはお元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。

昨年4月の学部改編により工学部化学工学科は都市環境工学部エネルギー・環境工学科として新たなスタートをきりました。石油の価格が100ドルに達し将来のエネルギーに対する不安が増し、また、異常気象、海面上昇による島国の水没等々の地球温暖化という環境問題が深刻になってきました。この様な状況にあってエネルギー・環境工学科に学科名称を変更したということは誠にタイミング良いことでありました。ただ、卒業生の皆さんにとっては馴染みの学科名がなくなるということで喪失感を伴うものではないかと、申し訳ない気もしています。しかしながら、カリキュラムも教員構成も連続性のあるものですので、これまで同様の愛着を感じていただければありがたいと思います。化学工学の学問としての重要性にいささかも変わりはなく、むしろ上記の様な諸問題に立向かう上でその位置づけが益々高まるものと考えています。化学工学を基本としながら、現代の要請にも十分対応できるように少しずつ私達も変わっていくことになるでしょう。

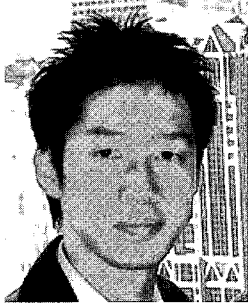
本年、工学部発足から50周年を迎えます。これに合わせ3月に新たに工学部3号館が竣工します。一番広い108教室が学生談話室に生まれ変わり、アメニティも徐々に改善されます。学習環境は良くなってきていますが、一方で学生の方はどうでしょうか。残念ながらゆとり教育育ちの学生は勉強の仕方を十分理解していない気がします。一から十まで手取り足取り教えないとわからない。じっくり考えるということが身につけていない学生が増えてきているように感じています。社会に出て一人前の戦力として貢献するためには、与えられた仕事にいかにつ加価値をつけられるかが重要ですから、自分で考えることができなければ評価されません。私たち教員は、単に記憶するだけではなく、その基礎となっている原理を理解できるよう引き続き努力してはおりますが、いささか無力感を感じることも多くなってきています。

工学部発足50周年は、学科にとっても50周年ということになります。学科でも50周年記念行事を秋に開催すべく準備を進めています。卒業生の皆さんはおそらく日頃から人のつながりの大切さを感じておられるのではないのでしょうか。この機会に同級生、研究室の先輩後輩や教員との旧交を温め、また、新たな出会いや発展した大学を見ていただくことも兼ねて多

くの方にご参集いただければ有意義な行事にできると思います。11月22日（土）に皆さんにお目にかかりたいと思います。

学科の人事では、昨年3月末で青木功先生がご退職になられ、4月から田中俊輔先生が助教として着任されました。新しい学科を發展させていくためにご活躍いただけるものと期待しています。

最後になりましたが、卒業生の皆さんのご健勝と益々のご活躍を祈念しております。



## ～着任のご挨拶～

### 着任し、早一年

環境都市工学部エネルギー・環境工学科 助教  
田中俊輔

昨年4月1日付けでエネルギー・環境工学科の助教に着任いたしました。本紙面をお借りしまして、新任のご挨拶をさせていただきたいと思います。

私は、学部生時代を同志社大学で学び、その後博士前期および後期課程を大阪大学にて化学工学を専攻し、規則性ナノ空間材料の合成とデバイス、分離膜への応用に関する研究を行ってまいりました。博士課程終了後、米国インディアナ州パデュー大学・Hugh W. Hillhouse准教授のもとでポスドクとして、微小角入射X線散乱を用いたメソポーラス薄膜の構造特性の解析に関する研究を行ってまいりました。米国での研究期間は短いものでしたが、理論的に深い基礎と研究分野の最前線に触れることで、私の研究に対する姿勢や考え方は大きく変わり、何よりも視野を広げることができたのは大きな収穫でした。

その後、2006年4月に関西大学・分離システム工学研究室・三宅義和教授のもとで、日本学術振興会の博士研究員として帰国し、2007年4月に助教として着任し、現在に至っております。振り返ってみると、慌ただしい研究生活だったと思いますが、その分次の仕事のためには「独創性を出していかなければいけない」と思い続けることができ、自分の研究と向き合う緊張感を保つことができたと思っています。

本学とのご縁は、学部生時代の体育会活動（陸上ホッケー…ご存知ですか？）での対戦と交友（試合も酒量も互角でした）、関西大から阪大大学院に進学してきた後輩との出会いに恵まれたことが始まりの気がします。博士研究員として在籍してからは二年が経過しようとしています。きれいなキャンパスや、充実した図書館その他の施設には今も感激しております。また、私のいる5階の部屋は見晴らしが良く、毎日気持ちよく仕事しております。大学教員として緊張感は付きものではありますが、エネルギー・環境工学科の發展にささやかな寄与ができればと、研究、教育に励む次第です。同窓会員の皆さまにはご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



### 32年を振り返って

昭和51年工学研究科化学工学専攻修了  
 (独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事  
 和坂貞雄

在学生の方に、少しでも参考にしていただければと思います、大学を出てからの私の32年間を振り返ってみたいと思います。

昭和51年大学院の修士課程を終了し、三井鉱山株式会社に入社しました。先ず赴任したところが、あの炭鉱節で有名な大牟田市でした。既に石炭産業の栄華は終焉しており、「強者どもの夢の後」の感がありました。ここで私は、石炭液化技術開発に従事しました。私の石炭との縁がここから始まりました。

当時はオイルショック後で、今後の石油価格の高騰を阻止する意味で、石炭からガソリンの製造が可能なことをアピールすることが必要とされた時代でした。このころは良い時代で、私も入社2年目から、イチロウで有名なシアトルで、一ヶ月程石炭液化プラントでの研修を受けました。さらにはその1年後に、石炭液化実証プラント建設のために、コロラド州デンバーに拠点を置く、日・米・独企業の出資で設立された米国籍企業に出向しました。ばかどかいアメ車に乗って通勤し、家はといえば、プールやテニスコートまで付いているといった子供の頃テレビで見て、あこがれていた通りの米国での夢のような生活でした。しかし、私の華やかな時代はこれまででした。原油価格が急落し、私も日本に強制送還となりました。

以降、石炭の暗黒時代が到来しました。私も、米国での生活の反動もあり、最も苦しい時代が昭和の最後まで続きました。しかし、今後起こるかもしれない石油ショックに備えて、国策としての石炭液化技術開発を継続することとなり、私も運の良いことに、国の事業に参加することができました。ただし、石炭に対する逆風がニューオーリンズを襲ったハリケーン「カトリーナ」並に吹いている頃で、国の研究といえども、民間企業からの協力は思ったほど得られず、何をしても空回りすることばかりでした。逆風が吹きすさぶ中、何とか日本の石炭液化技術を完成させましたが、その技術を使う企業が現れませんでした。ついに、石炭液化も私の運もこれまでかと思いました。

現在、原油価格が100 \$になろうとしています。もうおわかりでしょうか。石炭液化が再度復活する兆しが見えてきました。ただし、舞台は日本ではなく、アジアの産炭国、すなわち中国およびインドネシアです。今回は夢では終わらないような気がします。

私の32年間を振り返ると、山あり谷ありでした。しかし、石炭液化という夢を持ち続け、あきらめることなく継続してきました。種々局面で挫けそうになりましたが、不器用さが幸いして、他に転身できず、夢を持ち続ける結果となりました。現在、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構で理事として、石炭液化をはじめとして、石炭およびその他化石エネルギー分野、環境分野、燃料電池分野およびバイオテクノロジー分野と広い範囲を担当していますが、私のライフワークは石炭液化です。これは何時までも変わらないと思います。偉

そんなことはいえませんが、夢を持ち続けることは、自分の自信にもなり、励みにもなる事で、楽しみながら仕事を行う上でも非常に重要なことと考えています。

皆様のご活躍を期待しております。



## 関大在校生へ

昭和49年化学工学科卒業  
日立造船株式会社ソリューション本部  
設計部大阪設計第2グループ  
河野政記

私達が入学した昭和45年は、学生運動のピークは過ぎていましたが、関大闘争なるものが吹き荒れていた時だったと記憶しています。

私は、体育会自動車部に入部して2年間在籍しましたが、その間、体育会員というだけで、ゲバ棒を持った学生運動家達に追いかけられたり、ノンポリ呼ばわりされました。

今年の夏の初め、学生時代の唯一無二の親友が脳の奇病を患い病死しました。彼は外資系会社の社長で、気苦労が死期を早めた一因になったのでは、と思っています。

そのことがあってから、有志3人で卒業後33年で初めての関大化学工学科13期生同窓会を計画し、母校の100周年記念館で開催させて頂きました。集まったのは10人程でしたが、楽しい一時でした。120周年の来年も開催を予定しています。

自称プラントエンジニアの無役のしがないサラリーマンで、2男1女の父親ですが、人生は生きていて何ほのものだと思います。地球の何十億の人間の中で、偶々、日本で同世代に生まれ、同じ大学に集う仲間となった以上、お互い助け合って生きることをもう少しまじめに考えても損は無いと言う気がしている今日この頃です。

## 無限の可能性を秘めた 貴方達、目を広く外へ向けて

昭和51年工学研究科化学工学専攻修了  
高砂熱学工業株式会社 海外事業本部  
執行役員 海外事業本部長  
福本和行

私は、工学部化学工学科を昭和49年学部卒、51年修士課程終了後高砂熱学工業に就職いたしました。オイルショック後の就職難の時期でした。また大気・水汚染等の公害問題が流行(はやり)でした。当社は建設業に属し、空調設備の設計・施工を専業にしています。今流行の地球環境にも深く関わりのある企業です。

学生時代は比較的学業に勤しんだと自負していましたが、就職して感じた事・当社が求める人材は、バランス感覚(柔軟性)・業務への積極性・忍耐力で学業はあまり役に立ちませ

んでした。もちろん技術者としての基礎知識は大学で培った物です。技術系社員として就職しても自分の得意とする職種に就けないのが常です。入社3年後に海外赴任を命じられました。英語が不得意で苦勞もりましたが今に至っています。振り返ってみると私の場合、“業務への積極性”が30年以上飽きずに同じ会社で勤められた要因です。“やり甲斐と覚悟”が私の信条です。シンガポール・米国・香港・タイと海外赴任をしました。機会があればまた海外で仕事がしたいです。

可能性のあるあなた達は、学生生活を積極的に、目を外に向けて学業に励んでください。



## 在校生のみなさまへ

昭和51年工学研究科化学工学専攻修了

京セラ(株)八日市工場

ソーラーエネルギー研究開発部PV開発課 主事

岡田 健一

学生時代はもとより社会人になっても大いに本を読んで下さい。

本の読みかたには2通りがあって、「そうか、そうか、こんなことなのだ」

という知識を求める読みかた、

もうひとつは「これはどういうことなのか、なぜそうなるのか」という

自分から何かを求めて読む読みかたがあります。

このどちらも大切だと思います。

これからどのような仕事に就くにせよ、専門分野にとらわれず広く書物からも知識を求めて下さい。

また、若いときでしか出来ないことをたくさん体験されたと思います。

サークル活動、一人旅、アルバイト等など。

何年か先にそれらの経験が役に立つときがきっとあります。

みなさんのこれからのご活躍を期待します。



## 半世紀を生きてきた今、 関大生活を振り返って… そして、未来へ…

昭和49年化学工業科卒業

大阪市立特別支援学校

中川 廣志

= 何時も夢を抱いて、一生懸命に生きる =

昭和45年当時、日本万国博覧会が開催されていた吹田市にある関西大学の存在を全国大学要覧で見つけたのがこの大学との出会いです。やがて、受験を希望するようになりました。

故郷の金澤では、我が家は零細企業を営んでおり、貧しい生活をしていました。また、高校三年の時父親が亡くなり、受験すら諦めることも考えました。幸い兄（故人）が家業を継いでくれたお陰で、受験をすることができました。生活は実家からの仕送りや日本育英会、関大などの奨学金をふるに活用しました。

大阪で下宿した時は、孤独との戦いでした。学生生活をしたときの決意は、将来への希望は自分で築き上げるもの…との思いで、「早く友人を作り、学生生活を豊かに、楽しく過ごしたい。」と言う思いでいっぱいでした。

部活動ではTESA（工業英語研究会）に入部して英語力を身に付けました。昼食時や放課後の活動があり、とても厳しい部活動でした。将来的には、身に付けた英語力で、外国の会社と商談を取り込み、日本の産業の発展に寄与して働く事ができればと夢に描いていました。そして、卒業までには、英検一級に合格したい…この願いを強く抱いて、英語は随分勉強したものです。その一歩として、休日には、京都平安神宮へ出向いて、見知らぬ外国人との会話力も試しました。英語に掛ける情熱があったにもかかわらず、実力が伸びず、英検一級は不合格に終わりました。「能力の限界」を感じさせられ、自分の思っている会社への就職は困難だと感じ、それからは自分に適した進路を真剣に考えました。（一級合格していれば、会社に勤務していたと思います。）その頃、帰省した時に、高校時代の恩師でもあり、理科の楽しさを教えていただいた山崎先生との出会いがありました。教職を職業としての魅力を感じる機会を与えてもらったのは、その時でした。それからの私は教師になろう！ 此処に於いても、それが希望一夢になりました。私でも努力したら、成れる職業の1つであるかも！と考えると、私の大学生生活は一変しました。工学部の卒業単位の履修に加えて教職の単位の修得に情熱を注ぎました。社会学部や天六校舎にも足を運びました。自分は人と違った努力をする、この力こそが自分の個性を伸ばす最大の方法であると確信し、行動する力を身につけました。

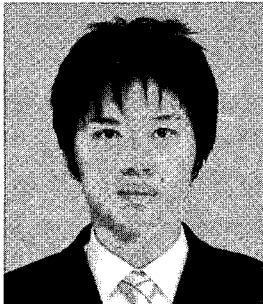
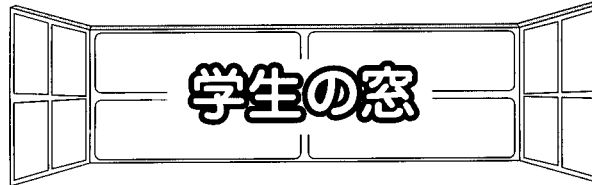
大阪での教職生活の一歩は、市内中学校での講師でした。二年目で、採用試験に合格しましたが、現実には生活指導、同和問題、不登校、いじめ…と教育実践に係わる事が山積みで、どれも積み残しの多い日々ばかりでした。自分が受けてきた教育論とは何かが違う！その思いを持ち続けながら、今は支援教育に携わっています。障害のある生徒達とは純粋な考えを持って、接することができ、教育に対する忘れていたものを取り戻すことができました。

教職生活七年の歳月を経た年に、良き伴侶と出遭い、第一子が誕生しました。第一子が一歳になったとき、夜中にふと眼が覚め「家族を守るのが、父親の役目である…」天の声？が聞こえました。父親が家族を守るためにも、護身術を身に付けようと、次の日、近くの空手道場の門を叩きました。

それ以来、空手道という武道の厳しい稽古に励む毎日でした。今は、地域のスポーツ少年団のお世話をさせて頂き、大阪府公認審判員、スポーツ指導員資格等を習得し、更に師範の免許状を授与していただきました。自分もよくここまで上りついたと思います。思い返せば、これまでの人生に共通する目標は、人様のお役に立てることができればと心の底にあったと思います。

「自分ができることを伸ばし、続けることで夢が広がる…何時も夢を抱いて一生懸命に生きる…」私の後輩に当たります関大生諸君におきまして、自分の目標に向かって歩いて下さい。必ず、実りのある結果が出るはずですよ。良い結果は早急にはできないからと言って、自棄にならず腐らずの精神で、自分を信じて努力を根気強く持ち続けて下さい。

私は退職まで、数年の刻みしかありませんが、教職を全うし、其の後は、武道を通して、青少年団の発展、健全育成のため微弱ながらも自分の選んだ道を歩みたいと思います。



## 学生時代を振り返って

工学研究科 資源循環工学研究室  
山下大輔

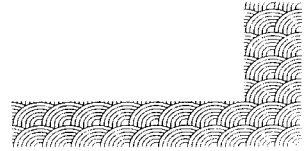
学生時代を振り返りますと、4回生から配属された資源循環研究室での3年間で最も楽しく、充実した日々でありました。3年間「電気泳動現象を利用した微粒子の分級装置の開発」に関する研究を行ったことにより、基礎から応用まで携わることができ、関連分野について理解を深めることができたと考えております。分級装置の試作を行うために、様々な方々のご協力を得て3ヵ月がかりで自分たちで装置を製作したことが非常に印象的でした。

大学院生のときは、研究室の様々な仕事を担当するとともに、学会および国際会議での口頭発表、論文投稿などを行う機会を得ることができました。特に、アメリカ・デトロイトで開催された国際学会（TMS）に参加させて頂けたことが最も心に残っています。学会では様々な分野で研究発表がなされていました。肝心の自分の口頭発表では、質疑応答時における聞き取りの難しさを痛感しましたが、海外の研究者が自分の研究に興味を持って聞いてくれたことで、研究に対するやりがいを感じることができました。学会開催地のデトロイトはアメリカの中でも危険な地域の一つであります。親切な人も多かったのですが、歩いているとお金をせがまれたり、バスでの移動の際には貧しそうに見える人が数多く乗っていることがあり、貧富の差を目の当たりにしました。このように、研究発表のみならず色々な経験を積むことができました。また、2つの学会から優秀ポスター賞を頂くことができ、他者から評価されたことに大きな喜びを感じるとともに、自分の研究の励みとなったことが強く印象に残っています。

このように、多くの学会での研究発表や論文投稿ができたことは、芝田先生をはじめとする色々な方々のご指導やご配慮、そして研究室の仲間などに助けてもらったことのおかげであり、大変感謝しております。授業で学んできたこと以外にも研究室での生活を通じて貴重な経験をできて本当によかったと思います。



# 教室だより



## 西村山治先生「瑞宝中綬章」受章

平成19年春の叙勲において、西村山治名誉教授が、関西大学や京都大学において長年にわたる教育並びに研究の発展に寄与されたご功績により、「瑞宝中綬章」受章されました。また、西村先生の受賞を記念して、「西村山治先生叙勲祝賀会」が平成19年10月13日（土）、リーガロイヤルホテル京都於いて、盛況裡に開催されました。西村先生の榮譽を讃え、お祝い申し上げますと共に、祝賀会にご臨席並びにご援助賜りました皆様に御礼申し上げます。

## 化学工学科・50周年記念式典を開催

化学工学科では、50周年記念式典の開催を計画しております。平成20年11月22日（土）の午後から関西大学100周年記念会館にて式典を行う予定です。詳細が決まり次第、皆様方にお知らせ致しますので、ふるってご参加頂きますようお願い致します。

## JABEE中間審査を実施

平成18年5月8日付で関西大学工学部化学工学科の教育プログラムがJABEE認定され、平成17年度および平成18年度に本学科を卒業した学部生はすでに「修習技術者」として認定されています。前回のJABEE本審査に引き続いて、平成19年10月にJABEE中間審査が実施されました。この中間審査の結果、本学科の教育プログラムがJABEE基準を満足するものとして認められれば、さらに3年間のJABEE認定が受けられることになります。

## 平成19年4月より工学部が全面改組

平成19年4月より関西大学工学部が全面改組され、現在、旧化学工学科の教員は環境都市工学部エネルギー・環境工学科に所属しています。エネルギー・環境工学科の一期生を迎えてから早一年が経とうとしています。

## ■編集後記■

第14回同窓会誌をお届け致します。巻頭言を学科長の三宅孝典教授にお願い致しました。「教室だより」では、新任の田中俊輔助教より原稿を頂きました。「卒業生に聞く」では、社会でご活躍の卒業生5名の皆様から近況を知らせて頂きました。「学生の窓」では、M2の山下大輔君より学生生活について報告して頂きました。

ご多忙の折、原稿の執筆にご協力頂いた皆様方、広告掲載会社の皆様方に厚く御礼申し上げます。卒業生の皆様方のますますのご活躍をお祈り申し上げます。



理化学機器  
理化学硝子器

赤尾理化機器

赤尾雄三

〒606-0081 京都市左京区上高野畑町39-10  
TEL (075) 701-2729  
FAX (075) 701-2740  
E-mail: akaorika@mwe.biglobe.ne.jp

旭テクノグラス特約店・オリンパス顕微鏡特約店・理化学機器全般

株式会社 小倉理化

〒574-0017 大阪府大東市津の辺町2番16号  
TEL.072-876-5464  
FAX.072-877-0190  
E-mail info@ogurarika.co.jp



KING Work's Co., Ltd

弗素樹脂のパイオニア

株式会社 キング製作所

代表取締役 稲垣允久

本社 吹田市泉町5丁目13番9号  
〒564-0041 TEL (06) 6389-4176(代) FAX (06) 6387-3049  
滋賀営業所 滋賀県彦根市平田町421 NASU 1ビル206号  
〒522-0041 TEL (0749) 22-6606 FAX (0749) 22-5245  
URL: <http://www.king-works.co.jp> E-mail: [kpf-king@ic.biwa.ne.jp](mailto:kpf-king@ic.biwa.ne.jp)  
滋賀営業所 E-mail: [sig-king@chive.ocn.ne.jp](mailto:sig-king@chive.ocn.ne.jp)

ジーエルサイエンスの

ガスクロマトグラフ



ジーエルサイエンス株式会社

本社 〒163-1130 東京都新宿区西新宿6丁目22番1号  
新宿スクエアタワー30F

【営業部代表】 電話 03 (5323) 6611 FAX 03 (5323) 6622  
ホームページ: <http://www.gls.co.jp>

大阪支店 TEL06(6357)5060 北関東営業所 TEL048(667)1611 名古屋営業所 TEL052(931)1761  
東北営業所 TEL024(533)2244 武蔵営業所 TEL042(934)2121 京都営業所 TEL075(256)0111  
筑波営業所 TEL0298(24)3281 横浜営業所 TEL045(475)1144 広島営業所 TEL082(233)1101  
千葉営業所 TEL043(248)2441 静岡営業所 TEL054(288)5252 九州営業所 TEL092(291)5200



耐圧硝子工業株式会社

大阪営業所/〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1-18-5  
新大阪丸ビル  
Tel.06 (6323) 8900(代) Fax.06 (6325) 0854  
URL <http://www.taiatsu.co.jp>

理化学機械・器具販売

有限会社 東郷商会

守口市寺方錦通3丁目1番25号  
TEL 06-6996-6192  
FAX 06-6996-2509

オフィス家具・事務用文具  
OA・PCサプライ&プリンティング

株式会社 宗石商会

〒530-0044 大阪市北区東天満2丁目10番35号  
TEL (06) 6353-1841  
FAX (06) 6357-7780  
E-mail [info@muneishi.com](mailto:info@muneishi.com)

八州薬品株式会社

本社 〒567-0085 茨木市彩都あさぎ7丁目7番18号  
彩都バイオヒルズセンター内  
電話 072-640-1260(代) FAX 072-640-1271  
堺営業所 〒592-8333 堺市西区浜寺石津町西1丁目4番20号  
電話 072-244-1368(代) FAX 072-244-4055  
和歌山営業所 〒640-8303 和歌山市鳴神746-3番地  
電話 073-473-5951(代) FAX 073-474-0453  
京阪奈営業所 〒574-0057 大東市新田西町3番10号  
電話 072-870-2711(代) FAX 072-870-2710  
神戸営業所 〒650-0047 神戸市中央区港島南町1丁目5番地2  
神戸キメックセンタービル8F  
電話 078-306-1739(代) FAX 078-306-1751  
大阪工場 〒574-0057 大東市新田西町3番10号  
電話 072-871-3751

# 平成18年度会計報告

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

化学工学科同窓会

(収入の部)

| 費目    | 予算        | 実行        | 差額      |
|-------|-----------|-----------|---------|
| 入会金   | 63,000    | 63,000    | 0       |
| 会費    | 600,000   | 465,000   | 135,000 |
| 広告    | 60,000    | 60,000    | 0       |
| 前期繰越金 | 2,379,946 | 2,379,946 | 0       |
| 合計    | 3,102,946 | 2,967,946 | 135,000 |

(支出の部)

| 費目    | 予算        | 実行        | 差額      |
|-------|-----------|-----------|---------|
| 総会費   | 10,000    | 0         | 10,000  |
| 会報費   | 600,000   | 477,436   | 122,564 |
| 事務費   | 10,000    | 88        | 9,912   |
| 通信費   | 10,000    | 5,760     | 4,240   |
| 卒業記念品 | 70,000    | 37,485    | 32,515  |
| 人件費   | 285,600   | 272,800   | 12,800  |
| 雑費    | 5,000     | 600       | 4,400   |
| 小計    | 990,600   | 794,169   | 196,431 |
| 次期繰越金 | 2,112,346 | 2,173,777 | -61,431 |
| 合計    | 3,102,946 | 2,967,946 | 135,000 |

平成18年度の化学工学科同窓会の会計報告書に従って、金銭出納帳について慎重に会計監査を行った結果、平成18年度化学工学科同窓会会計の運用状況は厳正かつ正確であり、その記述内容に相違がないことを認めます。

平成19年7月19日 化学工学科同窓会会計監査委員 飯田義彦  
阪元勇輝